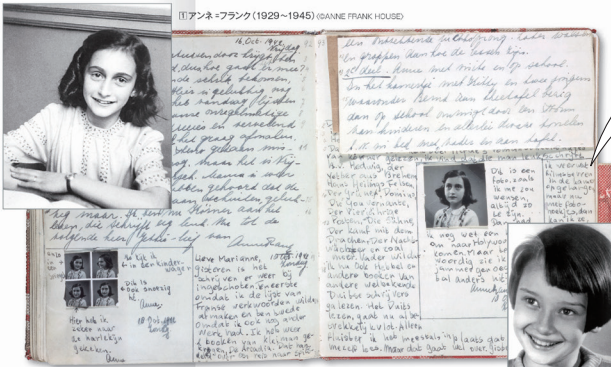


# 戦争の現実を知る 平和を考える

## ■ 戦争と平和の学習を深める

9章「第二次世界大戦の時代」に15テーマをあてました。体験者の証言や人びとの姿から戦争の現実を知り、平和について考えを深められるようにしました。



### (9) 戦争と二人の少女 —ヨーロッパの戦争—

オランダにいた少女たち。オードリーはどんなことをしたか。アンネはどこへ連れていかれたか

#### ■ 隠れ家で日記を書く

「1942年9月28日：ぜったいに外に出られないってこと、これがどれだけ息苦しいものか、とても言葉には表せません。でも、反面、見つかったら銃殺されるというのも、やはり恐ろしい」。この日記を書いた少女はア



①隠れ家(オランダ・アムステルダム)。本家の裏の隠れ家の入り口になって隠れ家での生活は、およそ2年間続いた。1945年3月、アンネは病気の16歳で死亡した。同年5月、ドイツ兵に殺された。(ANNE FRANK HOUSE)



②原爆で壊滅した広島市の中心地付近(1945年10月)。右は原爆ドーム(産業資料館)。(写真撮影：広島平和記念資料館提供)

### (14) にんげんをかえせ —原爆投下—

原爆による広島・長崎の人びとの苦しみとはどんなものか。投下したアメリカの目的は何か。

#### ■ 助けられなくてごめんさい

1945年8月6日午前8時15分、米軍の爆撃機が、原子爆弾「リトルボーイ」を広島市に投下しました。約600m上空で大爆発を起こし、きのこ雲を巻き上げました。学校は、すさまじい爆風で校舎が破壊され、子どもたちはその下敷きになって助けを求めました。

当時17歳だった加藤義典は、一人の子どもの手、なんとか助け出しました。しかし、猛烈な火の手が迫ってきます。もう一人、助けたい子がいたのですが、腕が柱におしつぶされて、引き出してあげられませんでした。子どもの手を握り、ごめんねと言う以外に何もできませんでした。このことは戦後も、ずっと加藤義典を苦しめました。74歳になってようやく、それを絵に描くことができました。



②加藤義典が描いた絵(広島平和記念資料館提供)



③原爆のきのこ雲(長崎)。米軍爆撃機から撮影。(原爆資料館提供)

#### ■ 8月9日、長崎にも

米軍はさらに、8月9日午前11時2分、長崎市にも原子爆弾「ファットマン」を投下し、やはり不気味なききのこ雲が立ちのぼりました。原爆は広島と長崎に、これまでの爆弾とは違う深刻な被害をあたえ、長い期間にわたって人びとを苦しめました。

その爆風は強烈で、爆心地から0.5km付近で風速300m(毎秒)、2km離れていても風速60m(毎秒)以上でした。放射された熱線も強烈で、爆心地の地表面の温度は3000℃以上に達していました。この熱線によって、人びとはひどい火傷を負い、皮膚は焼けてたれ下

激しい地上戦が繰り広げられた沖縄。降伏が認められない中、多くの人々が死亡しました。

### (13) 荒れ狂う鉄の暴風 —沖縄戦—

鉄の暴風の中で、住民にどんなことが降りかかってきたか

#### ■ 暗闇の海に沈む子どもたち

1944年8月、沖縄の国民学校の子供たちに乗って長崎に向かいました。アメリカ軍の空襲が激しくなってきたため、学童疎開が始まりました。しかし、米軍潜水艦の魚雷攻撃で夜海の海に投げ出されました。救助されず、日本の護衛艦にも乗りましたが、

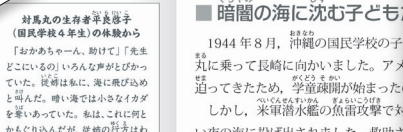
#### ■ 戦火に追われる住民たち

米軍は、1945年3月、多くの子どもたちを疎開させました。沖縄本島付近には、千数百架に飛ぶ立上り飛行機は1300機、総兵力が約10万人でした。

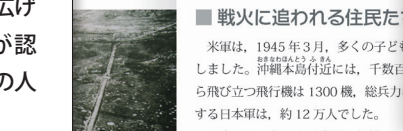
日本軍は、住民を防衛隊に組織し、中学生などを鉄血勤皇隊員にして日本軍の戦闘に参加させました。女生徒は学校ごとに看護要員として、日本軍とともに行動させました(「ひめゆり学徒隊」など)。また、住民に住宅や食料を提供させ、飛行場の建設にも動員しました。

米軍は、艦船が海上から砲撃を撃ち込み、空から戦闘機や爆撃機で襲いかかりました。人も物も吹き飛ばし、地形が変わるほどでした。さらに陸上では、火炎放射機で炎を吹き出す戦車などが攻撃をします。これらはのちに、鉄の暴風とよばれました。

日本軍は多大な損害を出しながら、南部へ後退しました。住民も戦火の中で逃げ場を失い、次々と死傷者を出しながら、追いつめられていきました。



①対馬丸の生存者若菜啓子(国民学校4年生)の疎開から「おかめちゃん、助けて」「先生どこにいるの」いろんな声があふいていた。夜間は海に飛び込みと叫んだ。暗い海では小さなイカガサを浮かべていた。私は、これに何をかまがり込んだが、従軍の行方とは



②米軍の艦隊対空迎撃による砲撃の跡(原爆資料館提供)

#### ■ 鉄血勤皇隊員訓練所

(沖縄3県)の米軍からかたてに建て、米軍が食料を撃ち込めるようになった。ようやく生き残ったのは4人。米軍の艦へ出て「アイスクリームボーイ」とか、食料のこぼれ「フ」とか、ありったけの菓物を使ってみた。米兵は、英語をしゃべるほかに、めずらしく見えていた。

加藤義典(17歳)は、原爆投下後の広島で子どもを助けられなかったことを悔やみ続けました。